



深の歴史(九)

三原市との合併
高崎壽郎

三原市との合併について深郷土誌は、次のように簡単に記している。

昭和二四(一九四九)年深田村を分村し、尾道、三原、美ノ郷村への合併運動起る。
昭和二五(一九五〇)年二月二十五日深田村を分村し、深を三原市に久山田を尾道市に合併することを経済会議で議決した。
昭和二六(一九五一年)三月三〇日深田村廃村式を深小学校で挙行。四月一日深は三原市に合併し深町と改めた。
深の歴史(三)の「深田村の成立と村役場」で書いたように深田村は不自然な村の成立から離合集散を内蔵しており、仲睦まじい夫婦的な村ではなかったようだ。

お悔み申し上げます
北迫繁夫様 七歳 六三番

七月町内行事予定

- ◆小学校
 - ◆七名(幼) 音ノ郷 地産地消会 六番
 - ◆舟橋(幼) 二番 個人懇談 一六・二七
 - ◆藤原(幼) 一七 手と手会 二〇・二二
 - ◆子ども会
 - ◆防犯マッパ(中・高) 七番
- ◆尚寿会
- ◆三ツツツツツツツツ 一六番
- ◆女性会
- ◆観音 上三六番 中六番 下五番
- ◆消防団
- ◆山林火災中継隊 一四番 消防隊 二七番
- ◆町内会
- ◆連合役員会(会費) 二番 下組 公民館整備委員会 七番
- ◆如水館高校
- ◆対談会 最寄学商 六番 岡山理天付属 七番

展望席

九〇年マリア・カラス国際コンクールで初優勝した声楽家の中丸三千絵さんは、「父は洋画家、母はピアニと芸術家だが『音楽学校で師匠の枠にはめられてやる日本式じゃほんとのオペラ歌手は育ちませんよ』と言い切る」。▼華道・茶道、歌舞伎等日本の伝統文化は血筋が重視され、能力はあっても外部者が家元の座に就くことは事実上不可能。官僚社会を始めたとする日本の各界構造も大同小異▼入江 昭氏 ハーバード大学歴史学教授、米国歴史学会会長。日本の学会でこんな人事が可能だろうか。日米文化の遠で片づけられればそれまでだが一考させられる。▼退任の挨拶がよく「大過なく」と言う言葉を聞く、裏返せば「今日は昨日の延長でした。」企業も単純成長時代は「量」(スケール)の追求である。今日は「質」(質)の時代だ。今日の延長では残りぬること。昨日の延長では残りぬること。さて、声楽家の中丸三千絵さんは、この日本文化の伝統をどのよう眺めているだろうか。平成の信長が出てよい。

こんには(子ども会)です

深町子ども会
会長 小川敦道

平素は、子ども会活動にご協力いただき厚くお礼申し上げます。おかげさまで子ども達も元気いっぱい、色々の行事に参加してくれています。一年生から六年生まで六二名の会員です。今回は、子ども会の内容について書いてみます。

一、子ども会とは
子どもによる、子どものための、子ども自身の集団です。一人ひとりの自主性、創造性、協同性を高めるために、自分たちで造った決まり(会則・約束)に従って、大人の助けを借りて活動します。資格は小・中学生です。

二、必要性
遊びは子どもの生活です。大人の仕事と同様に重要なものであり、成長するうえで欠くことのできない活動です。ルールをつくりそのルールのなかで、自己の知的、体力的な能力を発揮し、協調することの大切さや方法を学びます。

三、活動内容
社会的、文化的、体育的なものがありますが、深町では、県・市子ども会連合会の各種行事に賛同し、創作、スポーツ、野外活動を計画実行しています。今後、奉仕、文化活動等も行ないたいと考えております。

校舎と共に

体をとおして勉強
石井哲代

十四年振りに帰らせて頂いた深小学校。故郷へ帰った心地でした。安心でした。
「しんどくても仕事を仕了えた時の喜び」
「人の為になった時の喜び」
「自分の力を出し切った後の喜び」
等、人ならこそその喜びを求めたの学校生活だったと思うのです。

四年生の理科で、じゃが薯が教材でありました。安川校長先生は直ぐに、校舎の裏で給食室の前の焼却場を整理し耕し、畑にしておいて下さるのです。子供達は石やガラスを拾ってじゃが薯を植えました。家から堆肥や灰を持って来てふりました。校舎の裏の教員住宅の東側に石垣を積んだ狭い敷地の荒れた畑も、安川校長先生は開墾して下さって、それぞれの学級園にして花や作物を作る喜び、収穫の



四、指導者・育成者
子どもの意志によって自主的に運営されるのが原則です。指導者は子どもたちの動きに対して方向を示してやり、活動の場を確保し、財政の確立等、統括的、監督的な立場から運営にあたる必要です。育成は身近なことから、他人と協力する、みんなに迷惑をかけない、公共の物を大切にすることを育て、良い社会人になるための土壌作りの仕事です。
町内会はもとより、各種団体、会員保護者の皆様、今後ともよろしく願います。

喜びを共有しました。
掃除も、帚と雑巾をぶらぶら振って済ませておりました。
「本気で!!」後の喜びをを言葉に本気になりました。教室を拭き込んで元の白木になりました。全校児童が白木になるまで拭き込みました。帚の持ち方、掃き方、雑巾のゆすぎ方、絞る方、拭き方を教える上級生、鶏と兎も飼ってました。一回の小屋掃除も進んでました。
秋の遠足は飯ごう炊さんになりました。三年以上が講堂で縦割り班をつくりました。献立、持ってくるもの等それぞれきめてくるようです。中之町の大谷へ行きましたが水がなかなか見つからなくて、上流へ上流へと進みました。「あつ水だ」の先頭の声。「それっ」とばかりに場所を定め、石でかまどを造る男の子、流木や枝木を探す二、四年生。玉葱の皮をむきじゃが薯を洗い、米を研ぐ女の子。新聞紙を丸め涙を流しながら団扇を使う男の子。つるんと手から通りこるじゃが薯、目にしみる玉葱と格闘する子の姿。
いつしか紫の煙のぼり美味しそうなカレーの匂いが谷を包む頃「あ、焦げて了った。」と言いながら良いところを低学年のお皿に、自分達は真黒焦げのご飯にカレーをかけて食べている上級生の子達。
ごっこつした岩の上での感激のあの風景は今でも消えませんが飯ごう炊さんは秋の遠足の伝承行事となりました。



三原市との合併について深郷土誌は、次のように簡単に記している。
昭和二四(一九四九)年深田村を分村し、尾道、三原、美ノ郷村への合併運動起る。
昭和二五(一九五〇)年二月二十五日深田村を分村し、深を三原市に久山田を尾道市に合併することを経済会議で議決した。
昭和二六(一九五一年)三月三〇日深田村廃村式を深小学校で挙行。四月一日深は三原市に合併し深町と改めた。
深の歴史(三)の「深田村の成立と村役場」で書いたように深田村は不自然な村の成立から離合集散を内蔵しており、仲睦まじい夫婦的な村ではなかったようだ。

☆ 修学旅行の俳句

深小学校六年生

春の旅 どこへ行っても

人だらけ

映画村 みやげたくさん

お金なし

宇江 みなみ

おどろいた 旅館の朝

しかを見る

春の旅 ハローと言うのが

はずかしい

海原 大二

海遊館 イルカがジャンプ

かわいいな

きれいだな みんなみとれてる

ふじの花

田島 愛湖

海遊寺 いっぱい歩いて

あせが出た



暑かった ジニース買って

おいしいな

緑夢 彩

暑い日の 夕暮れ時に

宿につく

映画村 金をわぎって

徳をする

橋口 幸治

しかのふん けっこうおいしい

名はいやだ

水の中 水面うつる

金閣寺

林 明子

こわかった いきなりしかが

あらわれた

さわがしい よその学校

うるさいよ

村上 隋加



ありがとうございました

一九八六(昭和六一)年から一〇年間、深町音楽会を長として高齢者の先頭に立ってお世話してくださった、金櫻任一様が家族の都合で退任されました。
後任は、上鉦森本 宣様です。今まで同様ご協力くださるようお願いいたします。

深町子ども会 新役員

- 会長 小川敬道
- 副会長 西永照由 藤兼和志
- 会計 小林正美
- ソフト監督 岩野秀明



危険箇所立札設置

深幼・小PTA

PTAで子どもの安全を守るため、危険箇所へ立て札を設置しました。まだ野井戸等危険な所がありましたら学校へご連絡ください。
大人の目でかかれぬが子どもの世界です。

魔障一収にご協力を

七月十四日(日)に行ないます。たくさん出してください。

押し売りにご用心

先日、下組の一人暮らし老人家庭に表札を売りにきた。一要らないと断っても帰らぬ。困った末一警察に電話するといったら帰りました。相手の無知や弱さに付け込んで安く売る悪法にご注意。以下その写真。

- ▽消火車の交換、トインの防具ファン交換等、官庁の外から体らしき証明書を示します。
- ▽行商で魚を売りに来ました。暖昧な答えをしている中に包丁を入れたし、結局全部買わされた。
- ▽一〇〇さんは居られますか？一近所の方が親切心で一今、留守です。一安心して泥棒を働いてかえりました。

電話販売
断わりの意味で「いいです」と言ったのに品物が届いた。相手先に電話したら「いいです」とのことでしたので送りました。今更駄目です。

妻らぬ物は はっきり断る。それでも帰らぬば一一〇番